

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

三三三通信 第38号

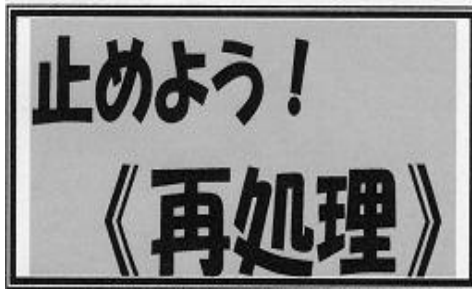
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

* 署名用紙はここにあります

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19)年

6月 13日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

三陸の海をきれいなままに子供達に残そう

豊かな三陸の海を守る会 総会

5月27日 宮古市磯鶏公民館



三陸の海を守るため
にあらゆる努力を!
田村剛一会長挨拶
三陸沿岸は豊かなきれいな海です。この海の遙か北方の下半島の付け

「豊かな三陸の海を守る会」(田村剛一会長)の総会が五月二十七日(日)宮古市磯鶏公民館において会員など約三十人が出席して開催されました。執行部から「放射能海洋放出規制法(仮称)」制定のため、沿岸市町村議会から国への意見書を出させる請願運動に精力的に取り組んだことなどの経過報告を受けました。さらに、運動を前進させるための本年度事業計画案が提案され、原案通り承認されました。「岩手の会」から永田文夫世話人ら二人が来賓として出席しました。

根に放射能を出す工場が造られ、三陸の海が危なくなってきました。私たちは精力的に立ち上がり三陸をきれいなままに子供達に残すことを願う運動をしています。昨年八月から九月にかけて、沿岸部の各市町村を回り、「放射能海洋放出規制法(仮称)」を早急に制定し、放射能から海を守るよう国への意見書の提出を求める請願運動を行ってきました。漁業者や消費者の共通の願いであるこの運動は各市町村議会や賛同を得て十の市町村で意見書が国に発送されました。



菅野和夫事務局長から次のような経過報告がなされ承認されました。八月以来沿岸十四市町村を回り要請し、現在内陸の遠野市も含め十市町村で国への意見書が出されました。三市町村で継続審議となっており、今後内陸の市町村にも働きかけを強めて行きます。六ヶ所村を取材した映画「六ヶ所村ラプソディー上映会」と「鎌仲ひとみ監督と語る会」を開催し、それぞれ四十人ずつの参加者を得て認識が深まりました。また、様々な形態の学習活動がなされ真相を伝える情報が人々に伝わっています。三陸の海の監視活動として、ワカメの検体を京都大学原子炉実験所小出裕章先生に、海水は原子力資料室に本年も依頼しました。

「海に、空に放射能を排出せず、放射能除去装置を付けよ」との要請署名についても、「岩手の会」とともに取り組んでい

「海に、空に放射能を排出せず、放射能除去装置を付けよ」との要請署名についても、「岩手の会」とともに取り組んでい

「海に、空に放射能を排出せず、放射能除去装置を付けよ」との要請署名についても、「岩手の会」とともに取り組んでい

原子力政策を問い直す 宗教者の会

5月14～15日 盛岡集會



成された協議会で、「何よりも命を大切にすること」で宗教者が心を合わせ放射能汚染のない日本と世界を求め、毎年全国集會を重ねて来ました。今回は、「止めよう！再処理工場」の主題で話し合われ、岩手から

は一般市民十余人も出席しました。

今、声を上げる大切さ
一四日夜には、東京海
洋大学名誉教授水口憲哉
先生の講演がなされ、操
業によって日常的に放射
能を出す六ヶ所再処理工

放射能汚染のないことを常に確認を
岩手選出 主濱 了 参議院議員が質疑

場について、真実を知つた人々が、全国各地で「海に放射能を捨てないでください」と声を挙げ始め、青森・岩手・宮城の農業・漁業生産者は安全で安心な食べ物を提供し続けたいと運動を始めました。未来の子ども達が安全な食べ物を得られるように、私たちは、今のうちに気がついた人から、声を挙げるのが大切です」と述べました。

参加者からは、「放射能放出を許す法体系の矛盾」や「放射能除去装置の仕組み」について、さらには、「農業や漁業生産者と全国の消費者との連帯の在り方」について質問や意見が出されました。

参議院岩手選出の主濱了議員（民主党）は五月三十一日農林水産委員会に質問に立ち、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場のアクティブ試験に伴う三陸沿岸海域の環境保全について質しました。

主濱議員は「三陸の漁場を守り、人々の不安を取り除くには、放射能汚染が常にならないことを確認する必要がある」として半永久的な監視、調査態勢の確立を求めました。

これに対し、若林正敏環境相兼農相臨時代理は「（政府には）環境汚染を防ぎ、漁業を守り、国民

盛岡市内『よ市』で 署名行動



の不安を解消する重い責任がある。監視態勢を確保し、調査を続けなければいけないと考えてい

る」と理解をしめしました。この答弁を裏付けるためには農林水産省、環境省、文部科学省といった国の機関による三陸の海を守る万全の監視態勢が、具体的に整備されねばなりません。

再処理工場

分析室で発煙

六月三日午後八時十五分ごろ、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場で火災を知らせる警報装置が作動し、「分析建屋で煙が出ている」と一十九番通報がありました。地域消防組合から化学消防車一台と広報車など四台が出動しました。煙が出ていたのは同建屋二階第二十一分析室の冷却水循環装置で、原燃職員が電源を切ると煙は収まり、消防は九時十分鎮火を確認したと、報道されています。

【編集手帳から】

『原子力百科事典・ATOMICA』の伝える再処理施設から環境へのヨウ素とトリチウムの放出低減化
独立行政法人科学技術振興機構
データベースコード(06-03-05-04)
抜き書き

【概要】トリチウムについてはレーザーによる水中トリチウムの分離が技術的に可能なことを実証した

【本文】「水中のトリチウムを同位体交換反応により、光分解のより容易な分子に移し（作業媒体という）次にこれをレーザーで照射し、トリチウムを含む分子のみを光分解することにより、トリチウムを分離する2段階法を用いた。作業媒体として、(中略)光分解可能なクロロホルムを選択し、レーザーを試作して試験を行った。」

「まず、トリチウム化クロロホルム試料を選択的に光分解するのに必要なアンモニアレーザーを開発した。アンモニアレーザーは炭酸ガスレーザーでアンモニア分子を励起した時の発光をレーザーとして取り出す」

「次に、トリチウム水との同位体交換反応により作成したトリチウム化クロロホルム試料をアンモニアレーザーで照射し、トリチウムに対する分離係数を求めた。(中略)クロロホルムは分解せず、トリチウム化クロロホルムのみが分解され、その濃度が減少していくことがわかる。」

「本試験規模は(中略)非常に小さな物であったが、同位体交換からレーザー照射に至る分離プロセスを一通り検討し、クロロホルムを作業媒体としたトリチウムのレーザー分離が技術的に可能なことを、世界に先がけて実証した。」

(メモ)「トリチウムは光のエネルギーを使って分離出来る」

この実験報告は、海洋汚染を心配する三陸の住民に取っては貴重な情報である。難しい科学用語が並ぶが、推論をするに、〈アンモニア分子から発生させたレーザー光線をトリチウムを選択的に取り込んだクロロホルムにぶっつけ「光分解」させ、トリチウムを分離することが出来る〉ということであろう。海洋へ放出する前のトリチウムを分離出来るならば、そのトリチウムを酸化した水にしたり、圧縮冷却し、ポンベに入れて管理出来るということになる。これは、1985年の報告であり、その後の研究や実用の見通しはもっと進んでいるはずだ。

トリチウムはベータ線放射を発生し、トリチウム水の状態で摂取されると体内組織にほぼ均等に分布し、突然変異などその影響として現れる。海に流してはならない物質である。(尚)